

# 小学生の家事手伝い (第2報)

—— 衣生活、住居と家族領域 ——

松田歌子・関口典子・西出伸子

## 1. 緒言

小学生の家事手伝いの実態を調べ、今後の家庭科教育の方向や指導を考える資料にするために、第1報<sup>1)</sup>では塾通いの多い現状で、小学生の余暇の有無と、食生活に関する手伝いについて、文教大学教育研究所紀要第3号に報告した。本報は、衣生活ならびに住居と家族領域について、実態を把握するとともに、家事手伝いが高齢者及び乳幼児との関わりから、児童の人間形成にどのように役立っているか解析を行った。

## 2. 調査方法及び概況

第1報<sup>1)</sup>に同じ。

## 3. 結果及び考察

### 3-1 衣生活

小学生の衣生活として、どの程度、自分のこと及び家族の手伝いができるかを調べた。

#### 1) 下着替えの用意

下着を取り替える場合、自分で用意するか、家人の手を煩わすかを、男女別と学年別に分けて調べた。結果は(図1)の通りである。

この図から、いつも自分でする男子は57%、女子69%で女子の方が優れている。学年別では男女とも、学年が上がると共に、いつも自分でする比率が階段状に確実に増大している。

着替えの用意は、衣生活の初歩的作業とも言える程のささやかな仕事であるが、年齢と共に成長の軌跡として、生活の自立を見る事

ができる。しかし、男子には6年生でも全く自分で用意をしない児童がある。これは家庭の躰に問題があり、保護者は男子にやや甘過ぎるのではないかと思われる。小学校5・6年生の家庭科において、生活の根幹指導として取り上げる必要を感じる。それは延いては自分の着用する被服全般を、意識選択する基礎になると考えられる。

#### 2) 洗濯の手伝い

家庭の洗濯は、近年、夜行う家庭が増加している<sup>2)</sup>が、一般的には児童の登校後に行われる場合が多い。また、洗濯はかなりの知識と配慮を要する仕事で、時には経済的問題を起こすことも有り得る。従って、小学生が容易に出来る洗濯の手伝いは、洗濯物を干す・取り入れる・たたむが考えられる。

##### (1) 洗濯物を干す

干す手伝いは(図2)の通りである。

この図から、男子より女子の方が良く手伝っているが、いつも手伝う児童は著しく少ない。干す作業は洗濯の時間的關係と共に、やや技術を要するためであろう。

##### (2) 洗濯物を取り入れる

取り入れる手伝いを男女と学年別に示すと(図3)の通りである。

この図から、洗濯物を干すより、取り入れる手伝いがやや多く、ここでも女子の方が良く行っている。また、学年が上がるにつれて手伝いの比率が上昇している。これは、高学年の下校頃が、洗濯物の取り入れに概ね適した時間帯である場合が多く、技術的にも簡単

な仕事で、手伝い易いためと思われる。

### (3) 洗濯物をたたむ

たたむ手伝いは(図4)の通りである。

いつもすると時々するを含めると、女子の手伝いが多いのに対し、男子は洗濯物の取り入れよりも少ない。これは、男子は取り入れても、そのまま放置する者があるのに対して、女子には家人が厳しく躰けるのではないかと推測される。

### (4) 洗濯の実施

家庭科で衣服の衛生や洗濯を学習した5・6年生に、洗濯の実施について調べた。結果は(図5)の通りである。

この図から、いつも洗濯している児童は著しく少ないが、6年生になるとわずかに増加が認められる。我が国の洗濯機普及率はほとんど100%に近く、うち、全自動が約60%(1994年)<sup>3)</sup>を占めている。洗濯機での洗濯はついでに、一緒にと、洗う場合が多く、時間的問題もあり、小学生が手伝う余地が少ないためと思われる。

### 3-2 住居と家族

小学生の住生活として、自分の部屋の片付けと掃除・ゴミだし。風呂掃除を、家族関係として、幼児を抱いた経験と老人に親切にした経験などを調べた。

#### 1) 部屋の片付けと掃除

自分の部屋、または自分がよく使う部屋の片付けを、どの程度行っているかを調べた。結果は(図6)の通りである。

この図から男女とも、いつもすると時々するを含めると、約80%が良く片付けを行っており、男女間に有意差が認められた。

掃除回数は(図7)に示す通りである。

毎日掃除する児童は男女とも7~8%にすぎず、女子は週1~3回、男子は月1~2回が多い。女子は週単位、男子は月単位と掃除回数に差がある。なお、男子の約20%、女子も約15%が全く掃除を行っていない。これは保護者の甘やかしと言えよう。自分の身の回

りを整え清潔にすることは、家庭生活に限らず、人間生活の全てにおいて重要なことであって、小学生の間に、確実に身に付けさせるべき家庭教育の課題であると思われる。

#### 2) ゴミ出しと風呂掃除

##### (1) ゴミ出し

ゴミ出しは、小学生が最も身近に参加できる環境保護の問題である。調査した両校区はいずれも、分別ゴミ収集を行っている地域である。児童がゴミを分けて捨てているかどうかを調べた。結果は(図8)の通りである。

この図から、いつも分けて捨てる児童は20%強に過ぎない。男女間に有意差が認められ、女子のほうがよく協力している。家庭科でも5年生で学習するが、まだ教育効果が充分とは言えないように思われる。今後、ゴミ問題は家庭科の重要課題として取り組み、資源の再利用に協力する意識をうえつけ、ゴミを少なくするように習慣付ける指導が必要であると考えられる。

##### (2) 風呂掃除

近年、風呂はほとんど家庭風呂であるため、風呂掃除も小学生の家事手伝いの、新しい仕事のひとつとなっているようである。

5・6年生の風呂掃除実施の状況は(図9)の通りである。

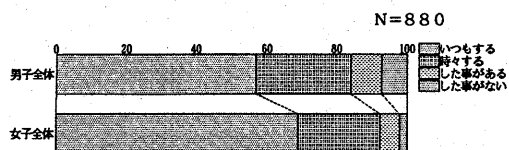
いつも掃除をする児童が約15%あり、時々手伝う児童を含むと60%近くが行っている。男女間に有意差は見られない。風呂掃除や入浴の問題は、これまで、小学校の家庭科ではほとんど取り扱われていないが、家庭風呂が普及した今日では衛生上の問題や入浴マナーの点からも、見逃すことの出来ない、新しい課題であると考えられる。

#### 3) 赤ちゃんを抱いたり、老人に親切にした経験

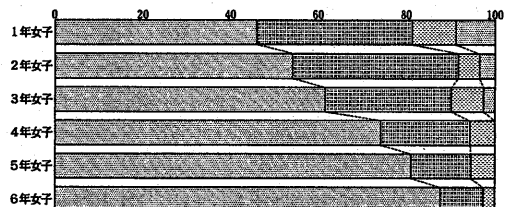
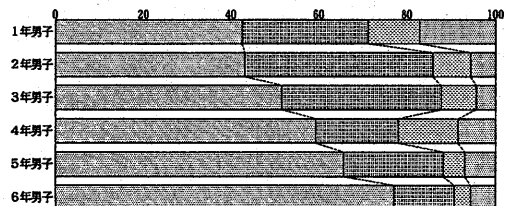
##### (1) 赤ちゃんを抱いた経験

現在、日本人の出生率は1.5人以下であって、兄弟姉妹が著しく少なく、児童達の家庭で赤ちゃんのいる家は少ない。このような社

小学生の家事手伝い（第2報）

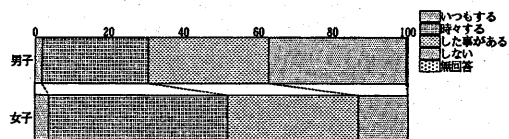


男女間  $F(1, 5; 0.01) = 16.3 < 18.6^{**}$



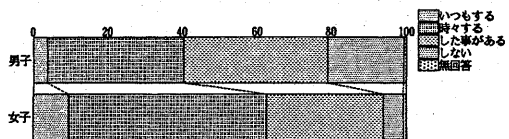
学年間  $F(5, 5; 0.01) = 11.0 < 13.4^{**}$

図1 下着替えの用意



$F(1, 5; 0.01) = 16.3 < 67.8^{**}$

図2 洗濯物を干す



$F(1, 5; 0.01) = 16.3 < 25.2^{**}$

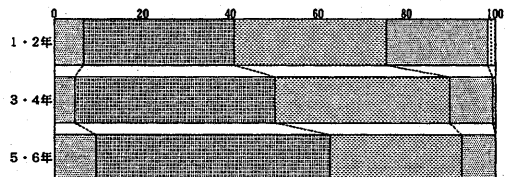
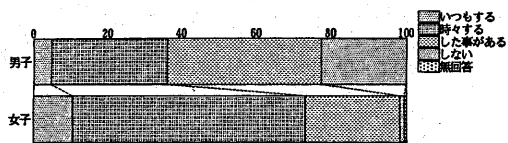


図3 洗濯物の取り入れ



$F(1, 5; 0.01) = 16.3 < 20.7^{**}$

図4 洗濯物をたたむ

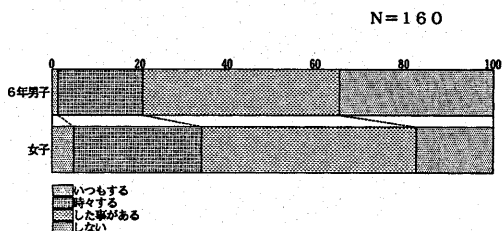
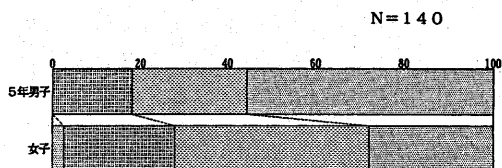
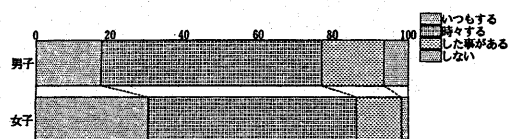


図5 洗濯機での洗濯の実施（5・6年生のみ）



$F(1, 5; 0.05) = 6.6 < 11.2^{*}$

図6 部屋の片づけ

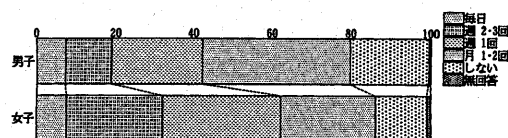
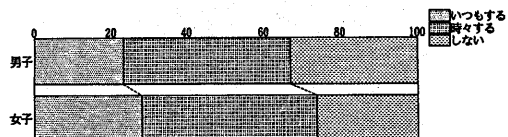


図7 部屋の掃除回数



$F(1, 5; 0.01) = 16.3 < 21.5^{**}$

図8 ゴミを分けて捨てる

会情勢の中で、赤ちゃんを抱いた経験を持つ児童がどれくらい居るかをしらべた。結果は(図10)の通りである。

これによると、男女間に高度の有意差があり、女子は80%以上が抱いた経験を持つが、男子はかなり少ない。

## (2) 老人に親切にした経験

近年、日本は急速に高齢化が進み、世界有数の老人国に成りつつある。児童が老人に親切にした経験を持つ比率は(図11)の通りである。

この結果から、約20%の児童が高齢者に対して、関心と思いをやりを持って居ると言える。親切にした経験が有る児童まで含めると、男女とも90%位が、何らかの形で老人に接していることになる。

## 3-3 家事手伝いと生活行動との関連

第1報<sup>1)</sup>において、小学生の食生活領域に関する家事手伝いの結果を報告し、本報では衣生活、住生活の手伝いの実態を述べた。

次に、これら衣・食・住に関する個々の手伝いを、まとめて総合手伝いとし、家事手伝いが、その他の生活行動に如何に関わっているかを検討した。総合手伝いの項目は、小学生として無理が無く、一般的で日常的と考えられる手伝いを選定した。食生活では、夕食の用意と後片付け、衣生活では、洗濯物の取り入れとたたむ、住生活では、自分の部屋の片付けと掃除の6項目である。

総合手伝いと生活行動との関連を見るために、表1の如く、総合手伝いの度合いを点数化し、その合計点をランク分けして解析を行った。なお、部屋の掃除回数については、毎日と週2～3回は、いつもする、週1回は、時々する、月1～2回は、した事があるに、それぞれ手伝いの度合いを変えて点数化した。

## 1) 塾と総合手伝い

第1報<sup>1)</sup>で、全児童の約80%が塾や稽古事に参加しており、塾に行っていない男子は、下校後に遊ぶ時間が多くあった。そこで、塾

の有無と手伝いとの間に関連が有るか否かを検討した。塾の有無と総合手伝いとの関係は(図12-1, 男子), (図12-2, 女子)の通りである。

検定の結果、男女とも、塾の有無と総合手伝い間に有意差は認められない。塾に行く時間帯は、一般家庭の夕食やその前後に当たるため、第1報<sup>1)</sup>で、塾に行かない女子の、夕食の用意の手伝いが多い結果であった。しかし、衣生活・住生活の手伝いは、時間帯が夕食ほど一定で無いため、本人の自覚と保護者の指導に負うところが大きいので、塾の有無と総合手伝いの間には関連が無い事がわかった。

## 2) ほうびと総合手伝い

小学生が家事の手伝いをして、ほうびを貰った経験を調べた。結果は(図13)の通りである。

この図から、いつも貰うと時々貰うを合わせると、男子35%, 女子31%である。これらのほうびは、良く手伝う児童が良く貰っているのか、或いは否か。小学生のほうびの度合いと総合手伝いとの関係を検討した。結果は(図14-1, 男子), (図14-2, 女子)の通りである。

検定の結果、男子には総合手伝いとほうびとの間に、高度の相関が認められる。これは、手伝いに対して児童がほうびを要求するのがあるいは、男子なのに良くやったと言う労い

表1 総合手伝い\*の数値化とランク付け

手伝いの度合い	点数	合計点数(点)	ランク
いつも手伝う	3点	18～15	①
時々手伝う	2点	14～10	②
手伝った事がある	1点	9～5	③
手伝わない	0点	4～0	④

\*総合手伝い

食生活：夕食の用意・夕食の後片付け  
衣生活：洗濯物の取り入れ・洗濯物をたたむ  
住生活：部屋の片づけ・部屋の掃除

小学生の家事手伝い（第2報）

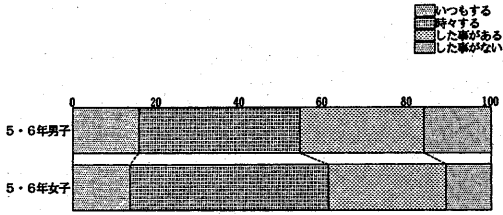


図9 風呂掃除の実施（5・6年生のみ）  
 $F(1, 2; 0.05) = 18.5 > 2.9$

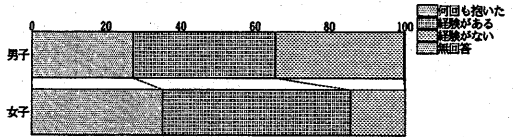


図10 赤ちゃんを抱いた経験  
 $F(1, 5; 0.01) = 16.3 < 29.7^{**}$

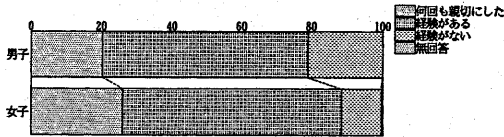


図11 老人に親切にした経験  
 $F(1, 5; 0.05) = 6.6 < 7.0^{*}$

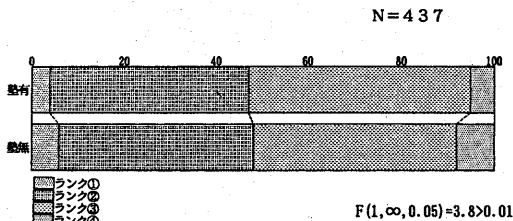


図12-1 男子の塾と総合手伝いとの関係  
 $F(1, \infty, 0.05) = 3.8 > 0.1$

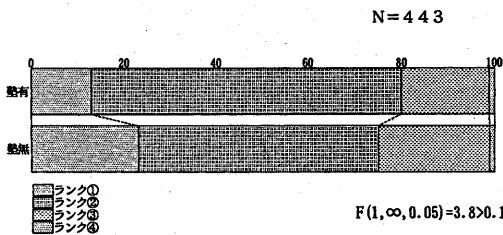


図12-2 女子の塾と総合手伝いとの関係  
 $F(1, \infty, 0.05) = 3.8 > 0.1$

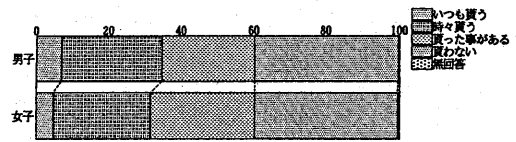


図13 ほうびを買った経験

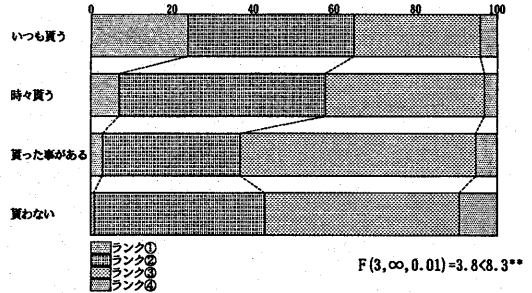


図14-1 男子のごほうびと総合手伝いとの関係  
 $F(3, \infty, 0.01) = 3.8 < 8.3^{**}$

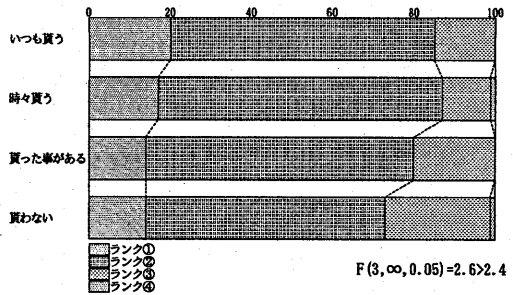


図14-2 女子のごほうびと総合手伝いとの関係  
 $F(3, \infty, 0.05) = 2.6 > 2.4$

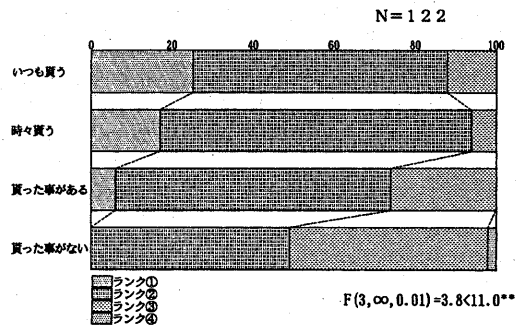


図14-3 低学年女子のごほうびと総合手伝いとの関係（1・2年生）  
 $F(3, \infty, 0.01) = 3.8 < 11.0^{**}$

と、おだててやらせる、と言う保護者の姿勢（作戦）も現れていると考えられる。しかし、女子には相関が認められず、低学年女子のみに（図14-3）のごとく相関が認められた。

これまでの調査で、ほとんどの仕事について、女子は男子より良く手伝っているが、ほうびを貰っている女子は男子より少ない。これは手伝わせる側に、女子は手伝うのが当たり前、と言う意識がどこかにあり、保護者は男子と小さい子供に甘いようである。

### 3) 他者への関心と家事手伝い

#### (1) 赤ちゃんを抱いた経験と総合手伝い

赤ちゃんを抱いた経験と総合手伝いとの関係は（図15-1, 男子）,（図15-2, 女子）の通りである。

検定の結果、赤ちゃんを抱いた経験と総合手伝い間には、男女とも相関が認められた。赤ちゃんを抱く経験は、身内あるいは近所に赤ちゃんが居なければ不可能であり、抱いてみたいという、強い気持ちが無ければ抱くことは無いと思われる。家事手伝いを良くしている児童は、日常、人間の実生活を体得する事によって、積極性と気配りが出来る様になり、幼児に対しても、愛情ある心を持つ人間に育っていると言える様である。

出生率低下の原因は様々に論じられているが、現代は、赤ちゃんを抱いた時の温かみ、重み、柔らかさ、匂い等を知らない人達が多くなり、人間の生命の尊さ、いとおしさを感じる心が薄れて来ているためとも考えられる。赤ちゃんを抱く、お守りをする、遊ぶを、これからの家庭科に、何らかの形で取り入れる必要があるように思われる。

#### (2) 老人に親切にした経験と総合手伝い

老人に親切にした経験と総合手伝いとの関係は（図16-1, 男子）,（図16-2, 女子）の通りである。

検定の結果、男女とも高度の相関が認められた。即ち、男女ともに家事の手伝いを良くする児童は、老人に対しても親切な行動をし

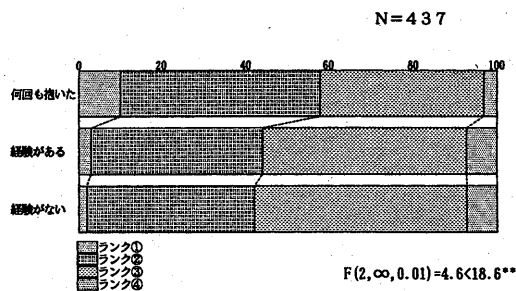


図15-1 男子の赤ちゃんを抱いた経験と総合手伝いとの関係

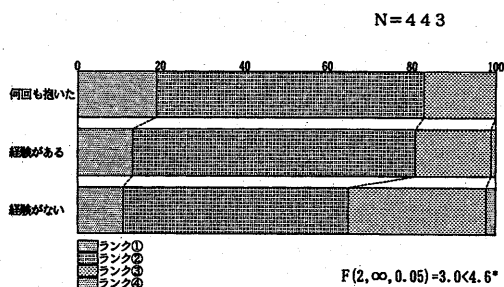


図15-2 女子の赤ちゃんを抱いた経験と総合手伝いとの関係

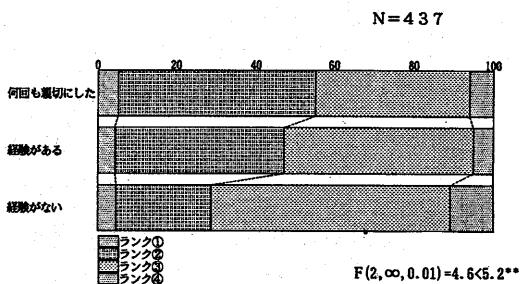


図16-1 男子の老人に親切にした経験と総合手伝いとの関係

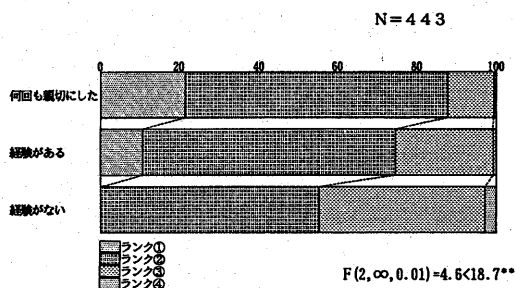


図16-2 女子の老人に親切にした経験と総合手伝いとの関係

ている者が多いと言える。老人に親切にしたいと思っても、手伝い等の経験が無ければ、気持ちは有っても、実際の対応をどうすればよいかわからない事もあると推測される。家事を手伝う事は、手伝いの技術面を身につけると同時に、他者への対応を身につけ、細かい心配りや思いやり等の、精神的な面も培われている事を示している。

現代の子供や若者は、老人や嬰兒の姿を知らなさ過ぎるように思われる。老人が次第に衰え死んで行く姿、嬰兒が、いかに大切に苦勞して育てられ、成長するものであるかも知らない。近年、若者達による、いじめや殺人等の驚くべき行為が、深い反省も無く、ゲームの様な感覚で行われているが、それは、命の尊さを知らないために起きる事件であると考えられる。口で命の尊さを説くことも重要であるが、老人との接触、乳幼児との触れ合いにより、老いの姿と死、子供の育つ姿を目の当たりに知れば、自然に命の尊さを知り、忌まわしい事件が減少するのではないかと思われる。

現代は、とかく学校教育や家庭での保護者の考え方が、学問的知識の習得に偏重しがちで、そのための時間や経済的負担は惜しまないが、スポーツ以外の肉体労働を軽視していると言えよう。教育の最終目的である人間形成のために、家事の手伝いをさせると言うことについて、その重要性を認識し直す必要があることが分かった。

#### 4. まとめ

小学生の家事手伝いの実態を調査し、家事手伝いが如何に生活行動と関わり、人間形成にも役立っているかを検討した。第1報<sup>1)</sup>では食生活を中心に述べたが、本報では衣生活、住生活と家族について報告する。

(1) 衣生活の初歩的作業である着替えの用意は、学年が進むにつれて自分で行う比率が増大し、生活の自立過程を見ることができる。

しかし、洗濯物を取り入れるとたたむでは、保護者は女子に厳しく男子に対しては甘さが見られる。

(2) 自分の部屋の片付けは、約80%の児童が行っている。しかし、自分の部屋の掃除は、女子は週1～3回位、男子は月1～2回位で男女間に差がある。

(3) ゴミを分けて捨てる習慣が付いている児童は20%強に過ぎない。

(4) 総合手伝い(衣・食・住生活から各2項目の計6項目)と生活行動との関連について、塾の有無は関連がなかった。ほうびは、男子が家事を手伝うと貰っている場合が多く、女子は手伝いとの関連が見られず、家庭のしつけ態度に男女差が認められる。

(5) 家事手伝いを良くする児童は、赤ちゃんを抱く事と、老人に親切にした経験を多く持っている。この事から、家事手伝いは積極性を育て、人間形成上良い結果を作り出している事が分かった。

本研究をまとめるにあたり、調査に御協力頂いた保谷市立保谷小学校、春日部市立備後小学校の先生方をはじめ、児童の皆様に関心から感謝の意を表します。

なお、本研究の一部は、日本家庭科教育学会第34回大会(1991, 6, 30)、日本家庭科教育学会平成4年度例会(1992, 11, 14)において発表を行った。

#### 5. 引用文献

- 1) 松田歌子、関口典子、西出伸子、小学生の家事手伝い(第1報)－食生活領域－  
文教大学教育研究所紀要第3号(1994)
- 2) 第25回被服整理学夏季セミナー講演要旨集  
69(1,992)
- 3) 西尾宏 最近の洗濯機及び洗濯習慣の変化  
洗濯の科学39 3 24(1994)